



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2018年09月17日 第886号「週刊五十嵐レポート」

リーマン・ショックから10年

10年前の当レポート(2008年1月14日第337号)、2007年11月30日付、日経新聞「私の履歴書」田淵節也野村證券元会長のコメント、「バブルが弾ける直前に、僕は株式相場の変わり目を直感して『海の色が変わった』と発言した。今、その時感じたのと同じような胸騒ぎを覚える。『アメッポン』と言われる日本は米国に振り回されてきた国だ。その米国が今また、大きく変わる節目にあるような気がしてならない」。

当レポート(2008年2月4日第340号)、親しい社長からのメール、「2008年～2009年に経済恐慌が来る。それは避けられない。アメリカには、証券化商品が約300兆円あり、実質価値は約140兆円。約160兆円は含み損。サブプライム問題は、現在のところ損失10兆円と報道されている。これが160兆円となれば、どうなるか。どんなに厳しい状況になっても当たり前のことを当たり前になし、この世の起きることは必要・必然と前向きに受け止め、様々なピンチを大チャンスに」。(トップは、事前の情報をどう判断し、どう実行するか)

2008年9月15日、経営危機に陥っていた米証券大手リーマン・ブラザーズは米連邦破産法11条の適用を申請し、経営破綻。経済恐慌に入った。

帝国データバンクによると、2008年4月～2009年3月の倒産件数は13,234件、負債総額13兆6709億円。(参考:2017年4月～2018年3月の倒産件数は8,285件、負債総額1兆6934億円)。当時、モノの動きが止まった。売上高が半減した会社も多かった。そのため、会社は倒産、倒産しないまでも生き残るために人員整理、派遣契約解除などが行われた。

社長塾に参加されている企業の中でもリーマンショック後、一気に債務超過になって経営危機に陥ったところもある。今は、戦略実力がつき、好景気も手伝って、会社の業績は順調。逆に人手不足、人材難で頭を悩ませている。

リーマン・ショック後に生き残れた企業は、少なくとも売上が激減して、大幅な赤字になっても耐えられる「キャッシュ」があった。それはそれまでの業績の積み重ねがあったから。強い会社は不況時に成長している。次の不況を待っている。

ちょっと
気になる出来事

先週、12年前に独立起業したときにお世話になった税理士・経営コンサルタントS氏が亡くなりました。74歳でした。今の時代では若く亡くなられたことになるでしょう。世の中を大局的に物事を見ることを学びました。

2年ぐらい経ったところから私は離れていきました。S氏は地方の企業再生を主にやっていました。私はそのころから企業再生や地方企業から離れ、地元の中小企業を中心に成長・健全化支援をする方向へ舵を切りました。

またS氏との仕事は、営業しないで済むので楽でした。しかし、これでは自分は力が付かない。またS氏は永遠ではない。楽な分、将来のリスクがあると判断しました。

10年後、訃報が届きました。S氏の外注コンサルタントは大変です。ほとんどの外注コンサルタントは100%S氏の仕事です。

下請けは楽な分、自分で仕事を取る力がなくなる。1社の顧客に依存するとその1社がなくなると経営危機に。

いろいろな事を教えていただきました。ありがとうございます。ご冥福をお祈りします。



一口メモ
知識

心を具体的にはっきりとつかむ

怒りという心があるとき、心の中をさがしても怒りはみつきりません。

しかし、怒りの心は、荒々しい呼吸や、こわばった顔の表情、力の入った肩など、具体的に体にあらわれます。だから、心の動きに気がつくためには、体の変化を、そのときしっかりとつかむのです。

自分の体の動き、呼吸、歩き方、そして感情の動きなど、具体的な動きから、心はとらえることができるのです。

いまという瞬間に起きている心の動きをつかまえたとき、心をおさめることができるのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

「戦略社長塾東京」銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

